

市域最古級の文化財

川越市域には国指定史跡の河越館跡(上戸・鎌倉時代)や、小仙波貝塚(小仙波町・縄文時代)など、さまざまな時代の文化財が数多くあります。今回は、川越市域に最初に人が住み始めたころの文化財を紹介します。

日本列島に人が住み始めた時期には諸説ありますが、多くの研究者の間では、少なくともおよそ4万年前まではさかのぼるといふことで意見が一致しています。関東平野でも、旧石器時代(約1万5千年前)の遺跡は数多く発見されていますが、川越市域ではこれまでに2万5千〜2万年前ごろの石器が発見されています。

弁天南遺跡(仙波町)では、奈良時代(およそ1300年前)の竪穴住居の中から、旧石器時代のナイフ形石器が出土しました。ナイフ形石器は、槍先として柄の先に装着した狩猟具と考えられています。おそらく奈良時代の人が住居を作るために地面を掘り下げた際、地中にあつた旧石器時代の遺跡を壊してしまったため、ナイフ形石器が混入したのでしょう。

なお、弁天南遺跡で発見された長さ3・5cmのナイフ形石器は、市立博物館受付脇のケースに展示されています(来年6月ごろまでの予定)。市域で最古級の文化財を見に行ってみませんか。



弁天南遺跡出土ナイフ形石器

伊佐沼の蓮を咲かそう会



伊佐沼では、毎年たくさんのハスが咲きます。かつての伊佐沼は農業用の貯水だけではなく、泳いだり、ハスの花を取ったり、地元の人々にとって生活の場でした。しかし、水質の悪化等が原因で一時はハスの数が激減しました。「伊佐沼の蓮を咲かそう会」は、20年余りの間、ハスの育成と水質浄化のために活動しています。「生活の場であつた伊



佐沼をなんとかしなければいけないと思いました」と話すのは会長の三上正春さん(古谷上)。ハスが生育し

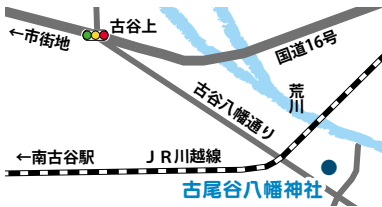
やすい環境を作るために草刈りを行うなど試行錯誤を重ねた結果、今では水面の1ha余りがハスで覆われるようになりました。



現在は100人を超える会員がいます。三上さんは「若い人たちに興味を持って参加してもらいたいですね」と話します。

伊佐沼のハスは、8月中旬までの午前中が見ごろです。ぜひ見に行ってみてはいかがでしょうか。

ハスの開花情報は、市ホームページで確認できます。右の2次元バーコードからアクセスできます。



古くから日本に自生するアジサイ。万葉集では大伴家持によって詠われていた。千年の昔、この地に暮らした人たちが、梅雨空の下でアジサイを眺めていたのでしょうか。



貞観4年(863)に創建され、長い歴史を持つ古尾谷八幡神社。表紙の撮影に訪れた6月中旬、社殿の脇から木立の間に整備された遊歩道を進むと、地域のボランティアの方たちによって植えられたユリやアジサイが見ごろを迎えていました。

編集後記

ぶんづつ